

- ISHIDA, Hiroshi, 1999, "Social Science Japan Data Archive and Japanese General Social Surveys," Japan Sociologists Network Panel, 94th Annual Meeting of the American Sociological Association, Chicago.
- 安藏伸治, 1999, 「日本版 General Social Surveys (JGSS) の調査方法論上の問題について (5) GSS と JGSS を用いた分析例と課題」『第 72 回日本社会学会大会報告要旨』 p.23.
- 岩井紀子, 1999, 「日本版 General Social Surveys (JGSS) の調査方法論上の問題について (3) Split-Ballot による質問項目の検討」『第 72 回日本社会学会大会報告要旨』 p.21.
- 岩井紀子, 1999, 「日本版 GSS の第 1 回予備調査を用いた家族測定項目の検討」『第 9 回日本家族社会学大会報告要旨』 pp.82-83.
- 佐藤博樹, 1999, 「日本版 General Social Surveys (JGSS) の調査方法論上の問題について (1) JGSS の目的と意義」『第 72 回日本社会学会大会報告要旨』 p.19.
- 中尾啓子, 1999, 「日本版 General Social Surveys (JGSS) の調査方法論上の問題について (4) 国際比較上の問題点 (GSS との比較)」『第 72 回日本社会学会大会報告要旨』 p.22.
- 木村雅文, 1999, 「日本版 General Social Surveys (JGSS) の調査方法論上の問題について (2) JGSS 予備調査の目的と方法」『第 72 回日本社会学会大会報告要旨』 p.20.
- ISHIDA, Hiroshi, 2000, "Doing Social Science Research in Japan: Data Archives and Japanese General Social Surveys," 4th Annual Asian Studies Conference Japan.
- 安藏伸治, 2000, 「共通論題 A 情報化時代の人口統計: 人口研究発展のための個票レベルのデータの公開」『第 52 回日本人口学会大会』 pp.40-42.
- 稲葉太一・岩井紀子, 2000, 「日本版 General Social Surveys (JGSS) の調査方法論上の問題について (2) JGSS 第 2 回予備調査の回収率と欠票の分析」『第 73 回日本社会学会大会報告要旨』 p.26.
- 岩井紀子, 2000, 「日本版 General Social Surveys (JGSS) の調査方法論上の問題について (1) JGSS 第 2 回予備調査の目的と方法」『第 73 回日本社会学会大会報告要旨』 p.25.
- 岩井紀子, 2000, 「日本版 General Social Surveys (JGSS) 第 2 回予備データによる調査方法論上の検討—謝礼のタイミングの影響および Split-Ballot による質問項目の検討」『日本社会心理学会第 41 回大会発表論文集』 pp.118-119.
- 高橋和子, 2000, 「日本版 General Social Surveys (JGSS) の調査方法論上の問題について (4) 産業・職業コーディング自動化支援システム」『第 73 回日本社会学会大会報告要旨』 p.28.
- 佐藤博樹・石田浩・池田謙一編著, 2000, 『社会調査の公開データ: 2次分析への招待』東京大学出版会, 260p.
- 杉田陽出・岩井紀子, 2000, 「日本版 General Social Surveys (JGSS) の調査方法論上の問題について (3) Split-Ballot による質問項目の検討」『第 73 回日本社会学会大会報告要旨』 p.27.
- 大井方子, 2000, 「日本版 General Social Surveys (JGSS) の調査方法論上の問題について (5) 情報化と所得格差と学校教育: JGSS データを用いて」『第 73 回日本社会学会大会報告要旨』 p.29.
- 谷岡一郎, 2000, 『「社会調査」のウソーリサーチ・リテラシーのすすめ』文藝春秋, 222p.
- 岩井紀子, 2001, 「日本版 General Social Surveys (JGSS) と家族測定項目—第 1 回予備調査データの検討」『家族社会学研究』第 12 巻第 2 号, pp.261-270.
- 小島宏, 2001, 「選択肢提示順による性別選好規定要因の相違」日本世論調査協会 2001 年度研究大会.

- 清水誠, 2001, 「JGSS 第 1 回本調査における比推定の試み」『第 74 回日本社会学会大会報告要旨』 p.193.
- 清水誠, 2001, 『JGSS 第 2 回予備調査データセットのウエイトについて』 SSJ Data Archive Research Paper Series 14 (SSJDA-14), 東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センター, 17p.
- 西村幸満・石田浩, 2001, 『JGSS-2000 調査 (2000 年 11 月) 職業・産業コーディングインストラクション』 SSJ Data Archive Research Paper Series 18 (SSJDA-18), 東京大学社会科学研究所附属日本社会研究情報センター, 22p.
- 大澤美苗, 2001, 「データの信頼性に関する実務的留意点と使いやすいデータへの配慮」『第 74 回日本社会学会大会報告要旨』 p.192.
- KOJIMA, Hiroshi, 2002, “Who Are More Likely to Make a Neutral Choice in Japan?: The Case of Opinion about Non-Obligation to Have Children After Marriage,” International Conference on Improving Surveys (ICIS 2002), August 25-28, University of Copenhagen, Denmark.
- 稲葉太一, 2002, 「全国調査での層化 2 段抽出法における最適な地点数割り当て法—JGSS-2000 の地点数割り当ての評価—」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『日本版 General Social Surveys 研究論文集 JGSS-2000 で見た日本人の意識と行動』 pp.185-191.
- 高橋和子, 2002, 「JGSS-2000 における職業・産業コーディング自動化システムの適用」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『日本版 General Social Surveys 研究論文集 JGSS-2000 で見た日本人の意識と行動』 pp.171-183.
- 高橋和子, 2002, 「職業・産業コーディング自動化システムの活用」『言語処理学会第 8 回年次大会発表論文集』 pp.491-494.
- 高橋和子, 2002, 「職業・産業コーディング自動化システムの活用」『情報処理学会自然言語処理研究会報告』 2002-NL-147(8), pp.47-53.
- 小島宏, 2002, 「選択肢提示順による性別選好規定要因の相違」『よろん・日本世論調査協会報』 第 89 号, pp.13-16.
- 中尾啓子, 2002, 「選択肢の選択：日米調査データにおける職業価値観の比較から得られた知見」『日本行動計量学会第 30 回大会発表論文抄録集』 pp.352-353.
- IWAI, Noriko, 2003, “Japanese General Social Surveys: Beginning and Development” 大阪商業大学比較地域研究所編『JGSS 国際シンポジウム 2003 報告書』 (2004), pp.161-184.
- IWAI, Noriko, 2003, “Research Designs for the JGSS,” Thematic Lecture on Japanese and Korean Social Surveys, Institute of Sociology, Academic Sinica, Taiwan.
- IWAI, Noriko, 2003, “Research Designs for the JGSS,” Thematic Lecture Series on East Asia [Theme 1] Social Surveys in East Asia, Sungkyunkwan University, Seoul, Korea.
- KOJIMA, Hiroshi, 2003, “Determinants of Attitudes toward Children in Japan: An Analysis of Split-Ballots in the JGSS,” Paper presented at the 54th Session of the International Statistical Institute, 13-20 August 2003, Berlin, Germany.
- 岩井紀子, 2003, 「JGSS プロジェクト (2) 調査方法と調査項目」『統計』 11 月号, pp.48-55.
- 高橋和子, 2003, 「JGSS-2001 における職業・産業コーディング自動化システムの適用」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『日本版 General Social Surveys 研究論文集[2]JGSS で見た日本人の意識と行動』 pp.179-191.

- 高橋和子, 2003, 「機械学習による職業コーディングルールによる自動コーディングシステムとの比較—」『第 36 回数理社会学会大会研究報告要旨集』 pp.68-71.
- 小島宏, 2003, 「中立的回答選択の規定要因—JGSS 予備調査 Split Ballot の分析—」2003 年度日本世論調査協会研究大会.
- 杉田陽出・岩井紀子, 2003, 「JGSS プロジェクト (3) 測定尺度と選択肢」『統計』12 月号, pp.49-56.
- 中尾啓子・池田謙一・安野智子, 2003, 「JGSS-2003 ネットワークモジュールに向けて—予備調査の結果報告—」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『日本版 General Social Surveys 研究論文集[2]JGSS で見た日本人の意識と行動』 pp.193-232.
- 湊邦生, 2007, 「東アジアにおける国際比較社会調査とその課題—世界価値観調査、ISSP、アジア・バロメーター、東アジア価値観国際比較調査から EASS へ—」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『JGSS Research Series No.3: 日本版 General Social Surveys 研究論文集[6]JGSS で見た日本人の意識と行動』 pp.1-23.
- IWAI, Noriko, 2004, “Japanese General Social Surveys: Beginning and Development,” Institute of Sociology, Chinese Academy of Social Sciences [ed.], 36th World Congress of International Institute of Sociology Abstracts (Papers Presented in Sessions), pp.82-83.
- 高橋和子, 2004, 「職業コーディングにおける ROCCO システムと SVM の組み合わせ」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『日本版 General Social Surveys 研究論文集[3]JGSS で見た日本人の意識と行動』 pp.163-174.
- 高橋和子・高村大也・奥村学, 2004, 「ルールベース手法と機械学習による自由回答の分類—職業コーディング自動化の方法—」『理論と方法』Vol.19 No.2, pp.177-196.
- 高橋和子・高村大也・奥村学, 2004, 「機械学習とルールベースによる職業コーディング」『情報処理学会自然言語処理研究会報告』2004-NL-159(9), pp.53-60.
- 高橋和子・高村大也・奥村学, 2004, 「機械学習とルールベースの組み合わせによる職業コーディング」『言語処理学会第 10 回年次大会発表論文集』 pp.737-740.
- 高橋和子・須山敦・村山紀文・高村大也・奥村学, 2004, 「職業コーディング支援システム (NANACO) の開発」『第 37 回数理社会学会大会研究報告要旨集』 pp.20-23.
- 小島宏, 2004, 「中立的回答選択の規定要因—JGSS 予備調査 Split Ballot の分析—」『よろん・日本世論調査協会報』第 93 号, pp.11-15.
- 谷岡一郎・大澤美苗, 2004, 「JGSS プロジェクト (4) 調査方法の国際比較」『統計』1 月号, pp.47-54.
- 保田時男, 2004, 「一般化 χ^2 適合度検定の可能性—大規模サンプルの共有公開データが引き起こす問題への対処—」『第 37 回数理社会学会大会研究報告要旨集』 pp.14-17.
- 保田時男, 2004, 「大規模サンプルに対する一般化 χ^2 適合度検定—JGSS データへの適用例—」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『日本版 General Social Surveys 研究論文集[3]JGSS で見た日本人の意識と行動』 pp.175-186.
- IWAI, Noriko, 2005, “Japanese General Social Surveys (2) Methodological Experiments in Administering the Questionnaire, Incentives, Scales and Wording,” ZA (Zentralarchiv für Empirische Sozialforschung an der Universität zu Köln)-Information, No.57, pp.83-102.
- IWAI, Noriko, 2005, “On East Asian Social Surveys” 大阪商業大学比較地域研究所編『JGSS

- Colloquium 2005 報告書』 pp.25-29.
- TAKAHASHI, Kazuko, TAKAMURA, Hiroya and OKUMURA, Manabu, 2005, “Automatic Occupation Coding with Combination of Machine Learning and Hand-Crafted Rules,” Proceeding:the 9th International Conference on Pacific-Asia Knowledge Discovery and Data Mining (PAKDD-05), Springer-Verlag Berlin Heidelberg, Lecture Notes in Artificial Intelligence Vol. 3518, pp.269-279.
- 稲葉太一, 2005, 「JGSS でみる層化 2 段抽出法の地点数割当数の精度評価—JGSS-2000 での割り当てを例にとって—」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『JGSS Research Series No.1:日本版 General Social Surveys 研究論文集[4]JGSS で見た日本人の意識と行動』 pp.219-224.
- 高橋和子・高村大也・奥村学, 2005, 「機械学習とルールベースの組み合わせによる自動職業コーディング」『言語処理学会論文誌 自然言語処理』 Vol.12 No.2, pp.4-23.
- 高橋和子・高村大也・奥村学, 2005, 「分類スコアに基づいたクラス事後確率の推定」『情報処理学会自然言語処理研究会報告』 2005-NL-170(16), pp.97-104.
- 高橋和子・須山敦・村山紀文・高村大也・奥村学, 2005, 「職業コーディング支援システム (NANACO) の開発と JGSS-2003 における適用」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『JGSS Research Series No.1:日本版 General Social Surveys 研究論文集[4]JGSS で見た日本人の意識と行動』 pp.225-241.
- 中尾啓子, 2005, 「複合ネットワークの概要—3 種類の社会ネットワークの複合と重複—」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『JGSS Research Series No.1:日本版 General Social Surveys 研究論文集[4]JGSS で見た日本人の意識と行動』 pp.131-152.
- 保田時男, 2005, 「JGSS データによる父学歴の欠損メカニズムの分析—〈わからない〉と〈無回答〉の違い—」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『JGSS Research Series No.1:日本版 General Social Surveys 研究論文集[4]JGSS で見た日本人の意識と行動』 pp.243-256.
- MINATO, Kunio, 2006, “Cross-National Social Surveys in East Asia: AsiaBarometer, East Asia Value Survey, ISSP, World Values Survey, and East Asian Social Surveys,” EASS Conference 2006, Institute of Sociology, Academia Sinica, Taipei, Taiwan.
- 岩井紀子・稲葉太一, 2006, 「住民基本台帳の閲覧制度と社会調査—JGSS-2005 での抽出からみた問題点と対応—」大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『JGSS Research Series No.2:日本版 General Social Surveys 研究論文集[5]JGSS で見た日本人の意識と行動』 pp.161-177.
- 高橋和子, 2006, 「統計処理に向けたテキスト型データのコーディング方法—カテゴリーに自動分類する場合—」原純輔編『学術資源学の構想—平成 15~17 年度科学研究費補助金(萌芽)論文集—』pp.57-70.
- 高橋和子・高村大也・奥村学, 2006, 「分類スコアに基づいたクラス事後確率の推定」『言語処理学会『第 12 回年次大会発表論文集』 pp.376-379.
- 宍戸邦章, 2006, 「国際比較調査における選択枝の検討—韓国・台湾・中国との比較に関する JGSS プロジェクトの経験—」『第 79 回日本社会学会大会報告要旨集』 p.106.
- 保田時男, 2006, 「社会調査のデータ解析テキストをめぐる問題—学生インタビューの結果から—」『大阪商業大学論集』 第 142 号, pp.87-98.
- 保田時男, 2006, 「測定理念の実現を妨げる被調査者との乖離」『第 79 回日本社会学会大会報告要旨集』

p.105.

- ENOKI, Miki, and IWAI, Noriko, 2007, “Pretest Results of EASS 2008 Culture Module and Proposed Changes by JGSS” 大阪商業大学比較地域研究所編『JGSS Colloquium 2007 報告書—東アジアの家族—』 pp.115-132.
- TAKAHASHI, Kazuko, TAKAMURA, Hiroya and OKUMURA, Manabu, 2007, “Estimation of Class Membership Probabilities in the Document Classification,” Proceeding: the 11th International Conference on Pacific-Asia Knowledge Discovery and Data Mining (PAKDD-07), Lecture Notes in Artificial Intelligence Vol. 4426, Springer-Verlag Berlin Heidelberg, pp.284-295.
- 岩井紀子・保田時男, 2007, 『調査データ分析の基礎—JGSS データとオンライン集計の活用—』 有斐閣, 296p.
- 高橋和子, 2007, 「機械学習を用いた自由回答分類の高度化に関する研究」 東京工業大学博士学位論文, 106p.
- 高橋和子・高村大也・奥村学, 2007, 「複数の分類スコアを用いたクラス所属確率の推定」『言語処理学会第13回年次大会発表論文集』 pp.542-545.
- 保田時男・宍戸邦章・岩井紀子・都村聞人, 2007, 「回収率はなぜ向上したのか：JGSS-2005 と 2006 の比較」『第80回日本社会学会大会報告要旨集』 p.30.
- MINATO, Kunio, 2008, “Cross-national Social Survey in East Asia: World Values Survey, ISSP, AsiaBarometer, Asian Barometer, East Asia Value Survey and EASS” 大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『JGSS Research Series No.4:日本版 General Social Surveys 研究論文集[7]JGSS で見た日本人の意識と行動』 pp.159-193.
- MINATO, Kunio, 2008, “Cross-national Social Surveys in East Asia: World Values Survey, ISSP, AsiaBarometer, Asian Barometer, East Asia Value Survey and EASS” 大阪商業大学比較地域研究所編『JGSS SYMPOSIUM 2008 報告書—Development of East Asian Social Surveys: Results of EASS 2006 Family Module』 pp.65-82.
- NITTA, Michio, 2008, “Development of East Asian Social Surveys” 大阪商業大学比較地域研究所編『JGSS SYMPOSIUM 2008 報告書—Development of East Asian Social Surveys: Results of EASS 2006 Family Module』 pp.135-137.
- TAKAHASHI, Kazuko, TAKAMURA, Hiroya and OKUMURA, Manabu, 2008, “Direct estimation of class membership probabilities for multiclass classification using multiple scores,” Knowledge and Information Systems (KAIS), ISSN:0219-1377 (Print) 0219-3116 (Online), Vol.19, No.2, pp.185-210. (2009) DOI: 10.1007/s10115-008-0165-z, Springer-Verlag London.
- 榎木美樹, 2008, 「EASS 2008 Culture Module の作成—JGSS によるプリテストの結果を中心に—」 大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『JGSS Research Series No.4:日本版 General Social Surveys 研究論文集[7]JGSS で見た日本人の意識と行動』 pp.195-232.
- 岩井紀子, 2008, 「JGSS の調査票の設計」 谷岡一郎・仁田道夫・岩井紀子編『日本人の意識と行動 日本版総合的社会調査 JGSS による分析』 東京大学出版会, pp.399-406.
- 岩井紀子・稲葉太一, 2008, 「調査対象者に謝礼を渡すタイミングの影響」 谷岡一郎・仁田道夫・岩井紀子編『日本人の意識と行動 日本版総合的社会調査 JGSS による分析』 東京大学出版会, pp.423-433.

- 岩井紀子・杉田陽出, 2008, 「JGSS 調査票の測定尺度と選択肢」 谷岡一郎・仁田道夫・岩井紀子編『日本人の意識と行動 日本版総合的社会調査 JGSS による分析』東京大学出版会, pp.407-422.
- 高橋和子, 2008, 「コーディングの自動化」 谷岡一郎・仁田道夫・岩井紀子編『日本人の意識と行動 日本版総合的社会調査 JGSS による分析』東京大学出版会, pp.459-471.
- 高橋和子, 2008, 「機械学習による ISCO 自動コーディング」 前田忠彦編『2005 年 SSM 調査シリーズ 12 社会調査における測定と分析をめぐる諸問題』2005 年 SSM 調査研究会, pp.47-68.
- 高橋和子・高村大也・奥村学, 2008, 「複数の分類スコアを用いたクラス所属確率の推定」『言語処理学会論文誌 自然言語処理』Vol.15 No.2, pp.1-36.
- 埴淵知哉・村中亮夫・安藤雅登, 2008, 「インターネット調査によるデータ収集の課題-不良回答, 回答時間, および地理的特性に注目した分析-」『E-journal GEO』10(1), 81-98.
- 中尾啓子, 2008, 「社会ネットワークの重複と複合ネットワーク」 谷岡一郎・仁田道夫・岩井紀子編『日本人の意識と行動 日本版総合的社会調査 JGSS による分析』東京大学出版会, pp.255-271.
- 都村聞人・岩井紀子・保田時男・宍戸邦章, 2008, 「JGSS-2005 を用いた通信機器利用の潜在クラスモデル—統計分析セミナーにおける適用例—」 大阪商業大学比較地域研究所・東京大学社会科学研究所編『JGSS Research Series No.4:日本版 General Social Surveys 研究論文集[7]JGSS で見た日本人の意識と行動』 pp.233-249.
- 保田時男, 2008, 「低下する回収率と回収不能の要因」 谷岡一郎・仁田道夫・岩井紀子編『日本人の意識と行動 日本版総合的社会調査 JGSS による分析』東京大学出版会, pp.447-458.
- 保田時男・稲葉太一, 2008, 「サンプルの抽出と代表性」 谷岡一郎・仁田道夫・岩井紀子編『日本人の意識と行動 日本版総合的社会調査 JGSS による分析』東京大学出版会, pp.435-446.
- 保田時男・宍戸邦章・岩井紀子, 2008, 「大規模調査の回収率改善のための調査員の行動把握—JGSS における訪問記録の分析から—」『理論と方法』Vol.23 No.2 2008, pp.129-136.
- SHISHIDO, Kuniaki, IWAI, Noriko, and YASUDA, Tokio, 2009, “Designing Response Categories of Agreement Scales for Cross-national Surveys in East Asia: The Approach of the Japanese General Social Surveys,” *International Journal of Japanese Sociology*, No.18, pp.97-111.
- 佐々木尚之, 2009, 「JGSS 統計分析セミナー—イベントヒストリー分析の適用例—」 大阪商業大学 JGSS 研究センター・東京大学社会科学研究所編『JGSS Research Series No.5:日本版 General Social Surveys 研究論文集[8]JGSS で見た日本人の意識と行動』 pp.91-105.
- 佐々木尚之・岩井八郎・岩井紀子・保田時男, 2009, 「ライフコースの多様性をとらえる—JGSS-2009 ライフコース調査の設計に関するノート—」 大阪商業大学 JGSS 研究センター編『JGSS Research Series No.6:日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集[9]』 pp.175-210.
- 三輪哲, 2009, 「社会的格差をとらえるためのマイクロクラス・アプローチ—JGSS 累積データ 2000-2006 による計量的分析—」 大阪商業大学 JGSS 研究センター・東京大学社会科学研究所編『JGSS Research Series No.5:日本版 General Social Surveys 研究論文集[8]JGSS で見た日本人の意識と行動』 pp.1-12.
- 埴淵知哉, 2009, 「EASS 2010 Health Module の作成—JGSS によるプリテストの結果を中心に—」 大阪商業大学 JGSS 研究センター編『JGSS Research Series No.6:日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集[9]』 pp.211-242.

- 保田時男, 2009, 「JGSS における調査員の訪問記録の分析」大阪商業大学 JGSS 研究センター・東京大学社会科学研究所編『JGSS Research Series No.5:日本版 General Social Surveys 研究論文集 [8]JGSS で見た日本人の意識と行動』 pp.79-90.
- SHISHIDO, Kuniaki, IWAI, Noriko, and YASUDA, Tokio, 2010, “Challenges of Agreement Scales in Cross-national Surveys: From the Aspect of East Asia”『大阪商業大学論集』第 158 号, pp.63-76.
- 岩井八郎, 2010, 「JGSS-2009 ライフコース調査の設計・実施・分析—回顧的経歴データの視覚的分析—」『第 83 回日本社会学会大会報告要旨集』 p.190.
- 岩井八郎, 2010, 「ゼロ年代のライフコース (1) —JGSS-2009 ライフコース調査の設計・研究視角・予備的分析結果—」『第 20 回日本家族社会学会大会報告要旨』 pp.28-29.
- 佐々木尚之, 2010, 「JGSS-2009 ライフコース調査の設計・実施・分析—調査方法の創意工夫と結果概要—」『第 83 回日本社会学会大会報告要旨集』 p.189.
- 三輪加奈・岩井紀子, 2010, 「East Asian Social Survey 2010 Health Module の作成 (2) —日韓中台のプリテストに基づく調整—」大阪商業大学 JGSS 研究センター編『JGSS Research Series No.7:日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集[10]』 pp.297-322.
- 三輪加奈・菅澤貴之, 2010, 「JGSS 統計分析セミナー2009—傾向スコアを用いた因果分析—」大阪商業大学 JGSS 研究センター編『JGSS Research Series No.7:日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集[10]』 pp.285-296.
- 小林盾, 2010, 「(小特集 社会調査教育をめぐって) 社会学と社会調査教育: 日本社会学会シンポジウムより」『社会と調査』 No.4, pp.52-60.
- 平尾桂子, 2010, 「JGSS-2009 ライフコース調査の設計・実施・分析—イベントヒストリー分析の適用—」『第 83 回日本社会学会大会報告要旨集』 p.191.
- 平尾桂子, 2010, 「ゼロ年代のライフコース (2) JGSS-2009 ライフコース調査による職歴と結婚イベントの分析」『第 20 回日本家族社会学会大会報告要旨』 pp.30-31.
- 岩井紀子, 2011, 「長期継続調査の現状と課題—JGSS (日本版総合的社会調査) の経験—」2011 年度日本世論調査協会研究大会 (11 月 11 日, 中央大学駿河台記念館) .
- 岩井紀子・宍戸邦章・佐々木尚之, 2011, 「East Asian Social Survey を通してみた国際比較調査の困難と課題」『社会と調査』第 7 号, pp.18-25.
- 高橋和子, 2011, 「ISCO 自動コーディングシステムの分類精度向上に向けて—SSM および JGSS データセットによる実験の結果—」大阪商業大学 JGSS 研究センター編『JGSS Research Series No.8:日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集[11]』 pp.193-205.
- 埴淵知哉・村中亮夫・花岡和聖・中谷友樹, 2011, 「社会調査における回収率の地域差—JGSS 累積データ 2000-2006 の回収状況データを用いた分析—」大阪商業大学 JGSS 研究センター編『JGSS Research Series No.8:日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集[11]』 pp.181-192.
- 埴淵知哉・村中亮夫・花岡和聖・中谷友樹, 2011, 「社会調査の回収率とその地理的傾向」日本地理学会 2011 年秋季学術大会 (9 月 23 日, 大分大学) .
- 曹陽・柴田由己・岩井紀子, 2011, 「East Asian Social Survey 2012 Network Social Capital Module の作成—日韓中台によるプリテスト調査票の作成—」大阪商業大学 JGSS 研究センター編『JGSS Research Series No.8:日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集[11]』 pp.219-257.

- 野崎華世, 2011, 「JGSS 統計分析セミナー2010—Ego-Centric なネットワークを用いた「他者の影響」の分析—」大阪商業大学 JGSS 研究センター編『JGSS Research Series No.8:日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集[11]』 pp.207-218.
- YAMAGUCHI, Kazuo, 2012, “New Regression Models with Egocentric Social Network Data: An analysis of political party preference in Japan,” RIETI Discussion Paper Series 12-E-048, 46p.
- 岡太彬訓・中井美樹・元治恵子, 2012, 『データ分析入門—基礎統計—』共立出版, 166p.
- 岩井紀子, 2012, 「公開調査データの作成と寄託—JGSS（日本版総合的社会調査）の経験—」『フォーラム現代社会学』第 11 号, pp.122-131, P.143.
- 岩井紀子・宍戸邦章, 2012, 「East Asian Social Survey からみた国際比較調査の困難と課題」2011 年度日本行動計量学会春の合宿セミナー（3 月 17 日, 大阪商業大学）.
- 高橋和子・魏大比・田辺俊介・吉田崇, 2012, 「社会調査における職業・産業コーディング自動化システムの Web 公開」『言語処理学会第 18 回年次大会発表論文集』 pp.219-222.
- 小島宏, 2012, 「内外で利用可能なマイクロデータと利用例」安藏伸治・小島宏編著, 『人口学ライブラリー 11 ミクロデータの計量人口学』原書房, pp.25-47.
- 埴淵知哉・中谷友樹・村中亮夫・花岡和聖, 2012, 「社会調査における回収率の規定要因—個人および地域特性を考慮したマルチレベル分析」『地理学評論』85(5), pp.447-467.
- 林光, 2012, 「JGSS 統計分析セミナー2011—傾向スコア・ウェイティング法を用いる因果分析—」大阪商業大学 JGSS 研究センター編『JGSS Research Series No.9:日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集[12]』 pp.107-127.
- YAMAGUCHI, Kazuo, 2013, “New Regression Models with Egocentric Social Network Data: An Analysis of Political Party Preference in Japan,” Sociological Methodology, Vol.43 No.1, pp.312-345.
- 高橋和子・田辺俊介・吉田崇・魏大比・李偉, 2013, 「WEB 版職業・産業コーディング自動化システムの開発」『言語処理学会第 19 回年次大会発表論文集』 pp.769-772.
- 轟亮・杉野勇, 2013, 『入門・社会調査法〔第 2 版〕: 2 ステップで基礎から学ぶ』法律文化社, 272p.
- 武内智彦, 2013, 「JGSS 統計セミナー2012—パネルデータを用いた潜在クラスモデル分析—」大阪商業大学 JGSS 研究センター編『JGSS Research Series No.10:日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集[13]』 pp.117-128.
- TAKAHASHI, Kazuko, TAKI, Hirofumi, TANABE, Shunsuke, and LI, Wei, 2014, "An Automatic Coding System with a Three-Grade Confidence Level Corresponding to the National/International Occupation and Industry Standard - Open to the Public on the Web" Proceedings of the 6th International Conference on Knowledge Engineering and Ontology Development (KEOD 2014), 369-375.
- 岩井紀子, 2014, 「原発避難に関する住民意向調査—社会調査の視点から見た課題」『学術の動向』4 月号, pp.94-101.
- 高橋和子, 2014, 「社会調査における職業・産業コーディング自動化システムの一般公開と運用」言語処理学会第 20 回年次大会（3 月 18-20 日, 北海道大学）.
- 高橋和子, 2014, 「職業・産業コーディング自動化システムの一般公開に向けた課題と対応」第 57 回数理

社会学会大会 (3月7・8日, 山形大学).

曹成虎, 2014, 「JGSS 統計分析セミナー2013—傾向スコア・ウェイティング法を用いた応用モデル—」
大阪商業大学 JGSS 研究センター編『JGSS Research Series No.11:日本版総合的社会調査共同研究
拠点研究論文集[14]』 pp.37-51.

岩井紀子, 2015, 「RC06 Family Research—大規模パネル multi-actor 国際連携調査時代の到来—」『社会
と調査』 Vol.19 No.4, pp.50-51.

谷岡一郎, 2015, 「調査データ・調査票の再利用をめぐる問題」『第 88 回日本社会学会大会報告要旨集』,
p.258.

谷岡一郎, 2015, 『科学研究とデータのからくり』, PHP 新書.

眞住優助・岩井紀子・孟哲男, 2015, 「住民基本台帳の閲覧・回収率・データ公開問題について—JGSS-2015
の実施を通してみた社会調査の困難—」『第 88 回日本社会学会大会報告要旨集』, p.157.

Dorothee, Behr., Kuniaki Shishido, 2016, "The Translation of Measurement Instruments for
Cross-Cultural Surveys," in Christof Wolf, Dominique Joye, Tom E. C. Smith, Yang-chih Fu(eds.)
The SAGE Handbook of Survey Methodology, SAGE Publications Ltd, pp.269-287.

NITTA, Michio, NISHIKAWA, Kazuji, 2016, "Introduction to the Japanese Short Grit Scale:
Relationship between Grit and Academic and Job Performance," EASS International Conference,
Seoul, Korea.

岡太彬訓, 2016, 「支持政党の変化と政党間の競合関係—JGSS-2009 LCS/2013LCS のデータを用いた非
対称多次元尺度構成法による分析—」大阪商業大学 JGSS 研究センター・京都大学大学院教育学研
究科教育社会学講座編『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集[16] <JGSS Research Series
13>』, pp.29-40.

岩井紀子, 2016, 「JGSS-2015 の実施と JGSS データの寄託から明らかになったこと(1)住民基本台帳問
題と閲覧にかかわる自治体対応の問題」JGSS 研究発表会 2015 (2月11日, 大阪商業大学) .

岩井紀子, 2016, (一社)社会調査協会ウェブサイト 最新オピニオン情報 「調査と丁寧に向き合うこ
と-JGSS の 18 年間の教訓-」 <http://jasr.or.jp/online/content/opinion/opinion.html>

埴淵知哉・村中亮夫, 2016, 「インターネット調査における住所情報付き個票データの利用可能性」『地
理科学』, 71(2), 60-74.

孟哲男・眞住優助・岩井紀子・宍戸邦章・岩井八郎, 2016, 「学歴に関する調査票の設計問題—JGSS-2015
の実施を通して—」大阪商業大学 JGSS 研究センター編『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究
論文集[16] <JGSS Research Series 13>』, pp.1-15.

眞住優助, 2016, 「JGSS-2015 の実施と JGSS データの寄託から明らかになったこと(2)公開データ問題」
JGSS 研究発表会 2015 (2月11日, 大阪商業大学) .

IWAI, Noriko, 2017, "Effects of Differences in Response Scale in Cross-National Surveys" The 1st
RC33 Regional Conference, Academia Sinica, Taipei. [FE]

IWAI, Noriko, 2017, "Measuring religion in Japan: ISM, NHK and JGSS" Survey Research and the
Study of Religion in East Asia, Pew Research Center, Washington, DC. [FE]

KIM, Jibum, FU, Yang-Chih, IWAI, Noriko, KIM, Seokho, WANG, Weidong, 2017, "East Asian
Social Survey (EASS) " 112th ASA Annual Meeting, Palais des congrès de Montréal,

- 岡太彬訓, 2017, 「支持政党の変化と政党間の競合関係Ⅱ—JGSS-2009 LCS/2013LCS のデータを用いた分析：非対称多次元尺度構成法の結果を階層非対称クラスター分析により解釈する—」大阪商業大学 JGSS 研究センター・京都大学大学院教育学研究科教育社会学講座編『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集[17] <JGSS Research Series 14>』, pp.1-17.
- 角野隆則, 2017, 「JGSS データ公開をめぐる諸問題:住民基本台帳問題と閲覧にかかわる自治体の対応の問題」JGSS 研究発表会 2016 (2月19日, 大阪商業大学) .
- 岩井紀子, 2017, 「社会調査の環境の変化と回収率の低下」日本学術会議社会学委員会社会統計調査アーカイブ分科会一般社団法人社会調査協会共催公開シンポジウム「社会調査をめぐる諸問題とその解決策」(5月20日, 嘉ノ雅 茗溪館) .
- 西川一二・角野隆則・岩井紀子, 2017, 「JGSS-2017 調査票の設計—EASS 2016 家族モジュールと新規項目(同性の結婚・Grit スケール)—」大阪商業大学 JGSS 研究センター・京都大学大学院教育学研究科教育社会学講座編『日本版総合的社会調査共同研究拠点研究論文集[17] <JGSS Research Series 14>』, pp.41-54.
- 孟哲男・岩井紀子・吉野智美, 2017, 「社会調査における接触率・協力獲得率・回収率と住居形態—JGSS に基づくオートロック付き集合住宅の分析—」第90回日本社会学会大会, 要旨集 p.63.